

古都・飛鳥散歩 飛鳥の風景を詠む

万葉歌碑フォトラリー

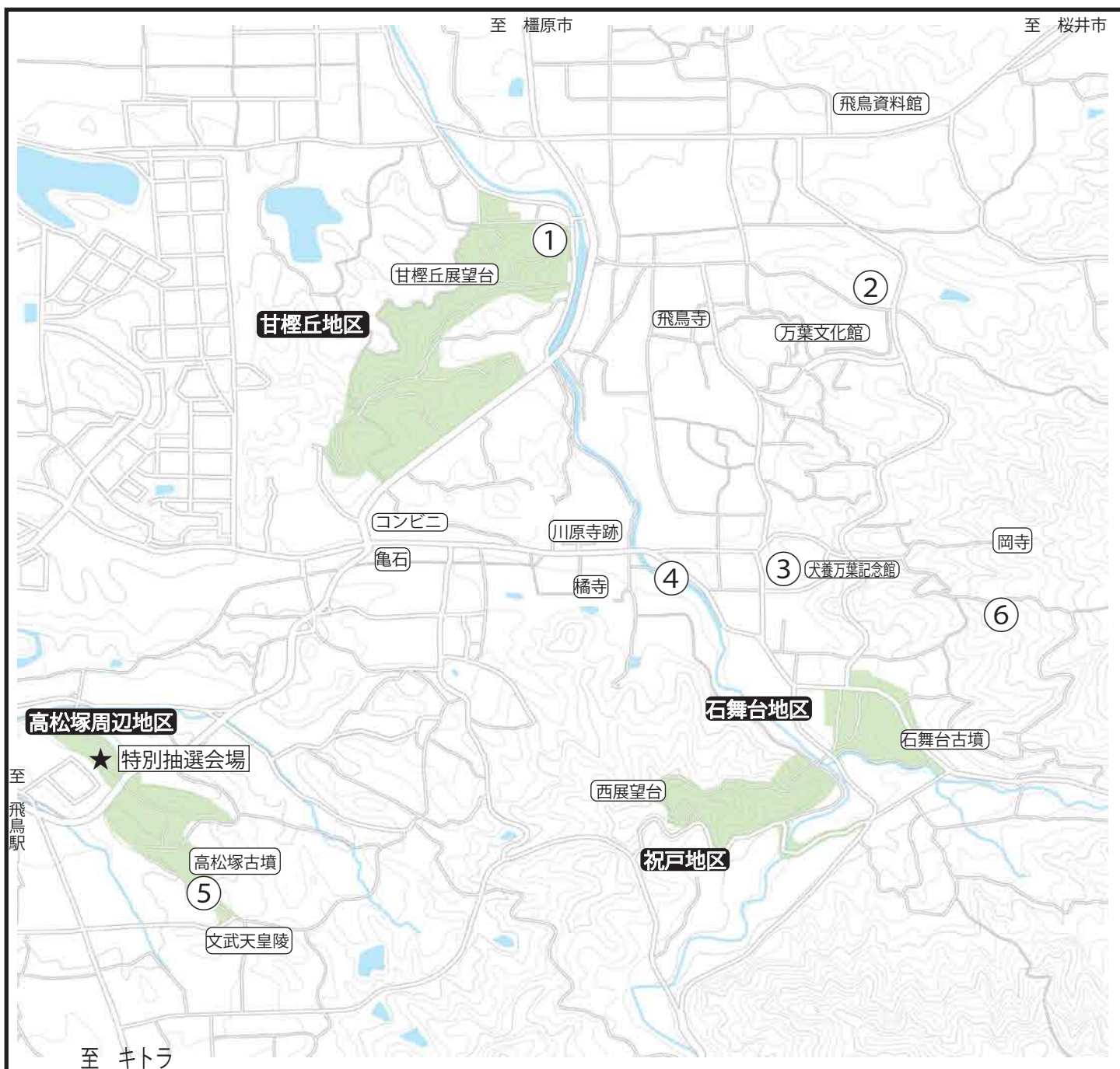
飛鳥の風景とともにある万葉歌碑。飛鳥の歴史だけでなく、その時々風景や想いが読まれた万葉歌碑を巡りながら、古代の飛鳥の風景を思いうかべてみませんか。

【期間】 平成29年4月15日（土）～5月21日（日）

【参加方法】

- ①万葉歌碑フォトラリーシートを持って、村内の歌碑を巡ろう。
- ②指定された6か所の万葉歌碑の内、2か所を巡り、飛鳥の景観と歌碑の写真を一緒に撮ろう。
- ③2か所の歌碑が映った写真を公園館受付に見せると特別抽選会に参加できます。

【特別抽選会】 国営飛鳥歴史公園館（9：30～17：00まで）



②大原の里

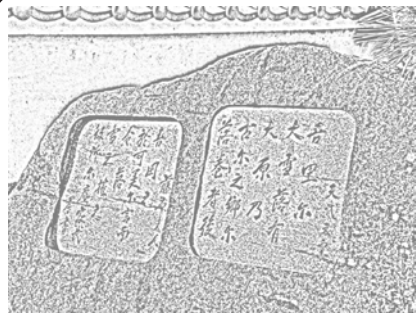
わが里に 大雪降り 大原の

古りにし里に 降らまは後

天武天皇

わが岡の おかみにいひて 降らしめし

雪の掛けし そこに散りけむ 藤原夫人



飛鳥時代の重要人物「中臣鎌足」の誕生地とされる大原神社にたたずむ歌碑。
天武天皇がいた浄御原宮から1キロしか離れていない大原の里に住む夫人に送った歌。「雪は豊年のしるし」とされており、雪が降ったことを自慢する天武天皇に、先に大原に降った雪の影響で、こちらにも雪が降ったと返答するほほえましいやり取りがされた相聞歌。

④飛鳥川

明日香川 瀬々の玉藻の うちなびき

情は妹に 寄りにつけるかも

作者未詳



明日香川の浅瀬に生えている藻が流れに揺れ動くように、私の心はあの子になびいていると詠った恋の歌。
多くの歌に「明日香川」は、その情景とともに詠まれています。
飛鳥川沿いにひっそりとたたずむ歌碑を見ながら、当時の情景を思い浮かべてください。

⑥嶋の宮

嶋の宮 上の池なる 放ち鳥

荒びな行きそ 君いまさずとも

草壁皇子の宮の舎人



28歳の若さで亡くなった天武天皇と持統天皇の皇子「草壁皇子」。皇子につかえていた者が、皇子が亡くなった後、暮らしていた嶋の宮が、荒れ果てていく様子を悲しく詠った歌。
歌碑の丘からは草壁皇子の宮とされる嶋の宮（石舞台地区の駐車場周辺）を見下ろすことができる。

①甘樫丘

采女の 袖吹きかへす 明日香風

都を遠み いたづらに吹く

志貴皇子



歌碑はかつての飛鳥京を見下ろせる甘樫丘の中腹に建てられています。
藤原京に都が移った後の飛鳥の宮は、活気がなくなり、明日香に吹く風だけが変わらず吹いている物悲しい情景が詠われています。
ここから望むかつての飛鳥京の姿を皆様も思い浮かべてください。

③犬養万葉記念館

山吹の 立ちよそひたる 山清水

汲みに行かめど 道の知らなく

高市皇子



若くに亡くなった年の近い異母姉、十市皇女への挽歌。
「山吹（黄）+山清水（泉）
|| 黄泉の国（よみのくに）」
で訪ねていきたいと思うが道がわからない」と会いたいと願う気持ちが詠まれている。
この歌碑は、万葉集の研究の第一人者の犬養孝先生を記念して建てられた記念館の中庭にたたずんでいます。

⑤高松塚

立ちて思ひ みてもそ念ふ くれなゐの

赤裳裾引き 去にし姿を

作者未詳



壁画に描かれた女子群像のような衣を来た女性。衣の裾を引いて去った女性の姿を忘れられず、物思いにふける男性の気持ちを詠った恋の歌です。
歌碑が立てられた高松塚の小高い丘は眺望もよく、ほっと一息つくにはとても良い場所です。